

Japanese Utility Model Registration No. 3017776

Registered: August 30, 1995
Filed: August 11, 1994 under SN H06-11478
Inventor/Applicant: SEKIKAWA, Hideo
Title: DOOR MIRROR WITH WIDE DIRECTION INDICATOR

ABSTRACT

A door mirror (1) having a direction indicator (3) and an auxiliary mirror (2) disposed unitarily with the door mirror with a door glass pane (4) sandwiched therebetween.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3017776号

(45) 発行日 平成7年(1995)11月7日

(24) 登録日 平成7年(1995)8月30日

(51) Int. CL ⁴	識別記号	片内整理番号	P I	技術表示箇所
B 6 0 R 1/12		A		
B 6 0 Q 1/34		B		

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願平6-11478

(22) 出願日 平成6年(1994)8月11日

(73) 実用新案権者 591103656

関川 秀雄

群馬県邑楽郡大泉町丘山2-7

(72) 考案者 関川 秀雄

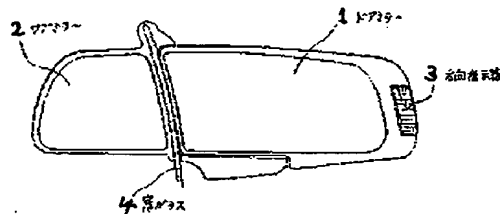
群馬県邑楽郡大泉町丘山2-7

(54) 【考案の名称】 ワイド式方向指示器付きドアミラー

(57) 【要約】

【目的】 右左折時や車線変更時ドアミラーに方向指示器が付いていれば、接近直等が安全確認を容易にでき、更にドアミラーとサブミラーを組み合わせて一体にし視界を広く大きくすることによって、目の移動量が少なくて済み、しかも死角を最小限におさえることが出来る、又狭い道路のすれ違い時や車庫入れ時にはドアミラーを倒してもサブミラーで対応出来、サブミラーは手鏡の代用にもなる、安全の向上と便利さを目的に考案されたものである。

【構成】 ドアミラー(1)に方向指示器(3)を取り付け、そのドアミラー(1)とサブミラー(2)を窓ガラス(4)を挟んで一体の状態になるように組合せ取り付けることによって、ワイドな方向指示器付きドアミラーとして使用出来ることを特徴とする



実登3017776

1
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項1】ドアミラー（1）に、方向指示器（3）を
付けサブミラー（2）を窓ガラス（4）を挟んで一体の
状態になるように取り付ける
以上の組合せからなるワイド式方向指示器付きドアミラ
ー。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の正面図

(2)

* 【図2】本考案の上面図

【図3】本考案の側面図

【図4】本考案の実施例図

【符号の説明】

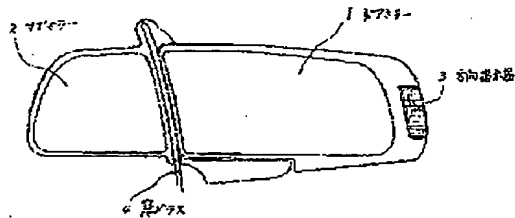
1はドアミラー

2はサブミラー

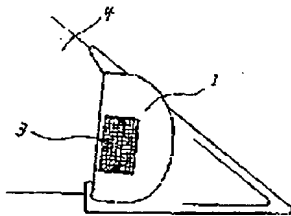
3は方向指示器

* 4は窓ガラス

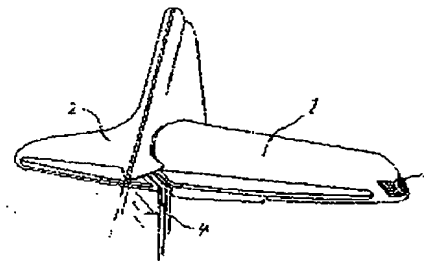
【図1】



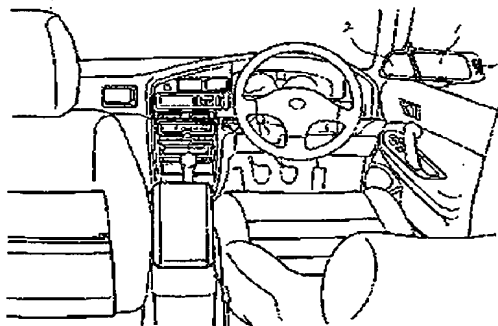
【図3】



【図2】



【図4】



(3)

実登3017776

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この考案は、ドアミラーに方向指示機能を持たせ、しかもサブミラーを組合せて視界を広く大きくしたワイド式方向指示器付きドアミラーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来のドアミラーは、視界が狭く小さかった。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

これには次のような欠点があった。

(1) . 視界が狭く小さいと、真横後方に接近して来た車や人が一瞬死角に入り危険であった、又方向指示器の確認が遅れて危険であった。

(2) . 今までのドアミラーでは、後方と後部座席の一部を同時に見て安全の確認が出来なかった。

(3) . 化粧直し等顔を見たい時、手鏡の代わりには出来なかった。

(4) . ドアミラーに方向指示器を取り付けたものはなかった。

(5) . 視界が狭いと、ミラーの角度調整が必要になり不便であった。

(6) . 本考案は、これらの欠点を解決するためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

(1) . ドアミラー (1) に方向指示器を付ける。

(2) . ドアミラー (1) にサブミラー (2) を、窓ガラス (4) を挟ん体の状態になるように取り付ける。

【0005】

【作用】

ドアミラー (1) に取り付けた方向指示器 (3) は、側面方向指示機能として作用し、ドアミラー (1) とサブミラー (2) を窓ガラス (4) を挟むように組

(4)

実登3017776

合せ取り付けることによって、一体にしかもワイドなドアミラーとして作用する。

【0006】

【実施例】

以下、本案の実施例について説明する。

(イ)、方向指示器(3)を取り付けたドアミラー(1)を、窓ガラス(4)にミラー部が接触する状態で出来るだけ死角を少なくし、後方向よりなるべく横方向まで見えるように取り付ける。

(ロ)、サブミラー(2)をドアミラー(1)と一体の状態になるように窓ガラス(4)にミラー部が接触する状態で、側面後方向から後部座席の一部まで見えるように取り付ける。

(ハ)、ドアミラー(1)は可倒式ミラーとする。

(ニ)、窓ガラス(4)を閉じた状態でドアミラー(1)を見たとき、ガラスに屈折作用があるので、屈折の大きさによりドアミラー(1)をサブミラー(2)との接点より後方に位置するように取り付ける。

本案は以上のような組合せでこれを使用するときは、右左折や車線を変更する時方向指示器(3)を作動させ、車線変更や後方安全確認する時にワイドなドアミラーを見て確認する、サブミラー(2)は手鏡の代用としても使用することが出来る。

【0007】

【考案の効果】

ドアミラーに方向指示器が付いていると、特に接近車両等は視界に充分入るので、右左折時の方向指示の確認が容易でしかも安全である。

又、ワイドなドアミラーにすることによって広角範囲に後方向の確認が出来るため死角を最小限に防ぎ、更に目の移動量が小さくすむので安全の向上につながり、ミラーの角度調整の必要もなく手間が省ける。

しかも狭い道でのすれ違い時や、車庫入れの時などはドアミラーを倒しても、サブミラーでカバーすることが出来る、更にサブミラーは手鏡の代用にもなる。

なお、サブミラーを適当な角度に動かしたり、簡単に取り外しが出来るように

(5)

実登3017776

すれば更に便利である。